

中国空母は南海で腕を磨く

人民網北京 1 月 9 日電（記者 黄子娟）

阿部信行

（訳者コメント）

空母遼寧の編隊は南シナ海に到着し、各種訓練、テストを行っています。天候及び海況があまりよくないので、離着艦がむづかしいと軍事専門家は述べています。今回艦載機の重点訓練科目は夜間訓練でした。記事の内容から見ると、従来の艦載機の訓練は、天候に問題のない環境で行われていたようです。今回初めて外洋に出て、艦載機作戦の厳しさを実感したのではないかと思います。

跨海区訓練に向かった中国海軍空母編隊は、南海の某海域において、J-15 艦載機の離着艦訓練及び編隊訓練等多くの訓練科目を演練した。軍事専門家は中央テレビの取材を受けた際に：艦載機の夜間の離着艦訓練が今回の訓練の重点である。艦載機部隊を含む航空兵部隊にとって夜間の離着陸訓練は作戦能力を評価する上で重要な指標になると述べた。

知るところによると、渤海、黄海及び東海に比べると、南海海域の気象条件は複雑であるという。その上、連日來の寒気団の影響を受け、訓練海域の海況が悪化した。排水量数万トンの遼寧艦の将兵も大きな揺れを感じ、艦載機の離着艦に多くの困難をもたらした。

これと同時に、遼寧艦編隊は南海海域で多くの試験項目と各型艦載への試験を行って、艦機融合水準と編隊協同指揮能力をさらに向上させた。

遼寧艦編隊の南海での訓練の重点に話が及ぶと、軍事専門家の尹卓は：基本技術訓練の点から見ると、南海の気象は不適である。今回編隊は艦載機の訓練ソーティー数が多く、夜間の離着艦を重点的にテストした。このほか南海海域は広大であり、対潜作戦及び核潜水艦が空母編隊を支援する等の戦術をテストしたと述べた。

軍事専門家の王明志は：艦載機の夜間の離着艦は昼間のそれとは大きく異なる。夜間は灯火の助けが必要だ。例えば、探照灯で滑走路を明るく照らしてパイロットが離着艦ができるようにすることだ。しかし夜間着陸の難度を上げるため、現在は探照灯は使用しておらず、パイロットは滑走路脇の標示灯を利用して着艦しなければならない。これはパイロットにとって高い技術が要求されると述べた。

王明志は” 夜間飛行訓練を強化する理由は、現在航空作戦は主として夜間に行

われるためだ”と述べた。航空作戦は、短時間に大量の戦力を迅速に繰り返し投入する必要があり、一般に昼夜連続して行われ、敵に息つく暇を与えないようにしなければならない。したがって夜間の飛行訓練は、艦載機部隊を含む航空兵部隊の作戦能力を評価する上で重要な指標になる。

王明志は、航空母艦戦闘群にとって艦載機の夜間離着艦訓練は、艦上の将兵の各持場、持場における夜間作業に習熟させ、相互の密接な協同作業を向上させ、甲板全体の作業の円滑化をはかり、航空機の安全な離着艦に資する、と述べた。

以上